

「JIS A6021建築用塗膜防水材料(外壁用)」専用下地挙動緩衝材

ラフトン下地挙動緩衝材

ラフトン下地挙動緩衝材は、公共建築改修工事の外壁用塗膜防水材料による外壁改修工事の際、幅0.2mm以上2.0mm未満のひび割れ部の補修に使用が可能です。(特記仕様)

性能

試験条件：NBKS-002

[外壁用塗膜防水工法に使用する下地挙動緩衝材の品質基準]：2022に準ずる。

項目	試験結果	品質
原料	○	基材はアクリルゴムとし、 鋳物充填剤や添加剤を配合したもの。
引張性能	引張強さ [N/mm ²]	2.83 0.20以上
	破断時の伸び率 [%]	583 400以上
加熱処理後の引張性能	引張強さ比 [%]	135 100以上
	破断時の伸び率 [%]	633 400以上
付着性能	付着強さ [N/mm ²]	0.97 0.30以上
	界面破壊率 ¹⁾ [%]	0 50%未満
固形分 [%] (105℃、1時間)	○	表示値±3.0
硬化物比重	○	表示値±0.1

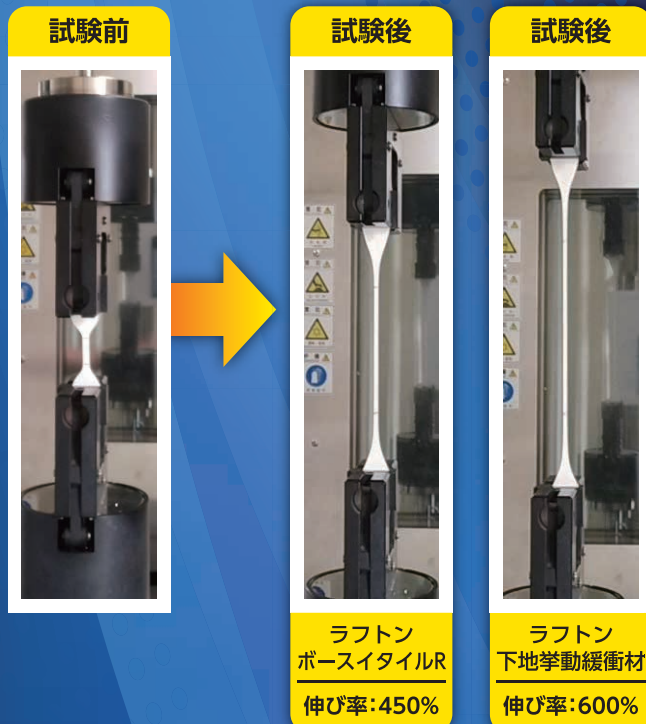
荷姿

ラフトン下地挙動緩衝材
4kg

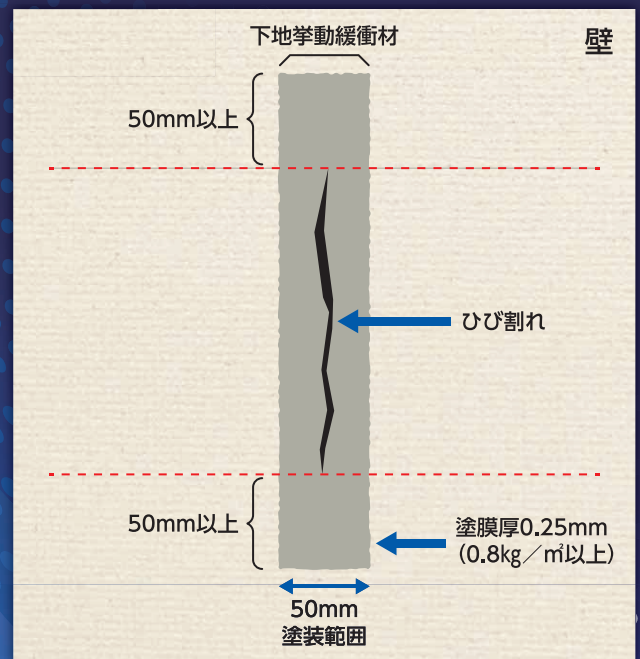
1) 界面破壊率：破壊面全体の面積に対する界面破壊の割合
本試験では、プライマーと下地挙動緩衝材界面及び下地挙動緩衝材と防水材界面の和の割合

引張性能試験

試験条件：NBKS-002 2022 引張性能に準じる。



施工例



※下地挙動緩衝材はひび割れ部の延長上50mm以上に50mm程度の幅で0.8kg/m²以上を端部に段差が生じないように、はけで塗付けてください。

◆ラフトンボースイタイル《凹凸模様》

工程	塗材	調合(重量比)	標準所要量(kg/m ² /回)	塗回数	間隔時間(23℃)	施工方法
1 下地調整	<ul style="list-style-type: none"> ●既存塗膜の浮き・膨れ・脆弱部などはサンダー・皮スキなどを用いて除去する。 ●汚れ・じんあい及びチョーキングなどの劣化塗膜を高圧水洗(水圧15MPa以上)で除去する。 ●水洗い面を十分に乾燥させる。(含水率10%以下、pH10以下) ●既存塗膜の段差を同一模様になる塗材で復元する。 ●ひび割れの幅が0.5mm以上、2.0mm未満の場合、あらかじめひび割れ部に下地調整塗材C-1をすり込む。 					
2 下塗り	カチオンシーラーEPO 清水	100 (無機系)	0.1以上	1	2時間以上	はけ・ウールローラー エアレス
3 下地挙動緩衝材	ラフトン下地挙動緩衝材 清水	100 (無機系)	0.8以上	1	5時間以上	はけ
4 増塗り	ラフトンボースイタイル 清水	100 (無機系)	0.5~1.0	1	5時間以上	はけ
5 主材塗り	基層塗り ラフトンボースイタイル 清水	100 4~6	1.7以上	1	5時間以上	リシガン、タイルガン 口径5.0~6.5mm 吹付圧0.3~0.5MPa
	模様塗り ラフトンボースイタイル 清水	100 0~2	0.7以上	1	16時間以上 (凸部処理1時間以内)	リシガン、タイルガン 口径6.5~8.0mm 吹付圧0.2~0.4MPa

凸部処理模様の場合

6 (ローラー押さえ)					16時間以上	
-------------	--	--	--	--	--------	--

◆ラフトンボースイタイルR《さざなみ模様》

4 増塗り	ラフトンボースイタイルR 清水	100 (無機系)	0.5~1.0	1	5時間以上	はけ
5 主材塗り	ラフトンボースイタイルR 清水	100 0~1	1.0以上	1	5時間以上	パターンローラー
	ラフトンボースイタイルR 清水	100 0~1	1.0以上	1	16時間以上	パターンローラー
6 又は 7 上塗り	ラフトンボースイタイル水性トップU 清水	100 5~15	0.25以上	2	4時間以上 (最終養生24時間)	はけ・ウールローラー エアレス
	水性セラフレックスSi又はF 清水	100 5~15	0.25以上	2	3時間以上5日以内 (最終養生24時間)	はけ・ウールローラー エアレス
	ラフトンボースイタイルトップコート スズカシンナー#2000	100 40~60	0.25以上	2	1時間以上24時間以内 (最終養生24時間)	はけ・ウールローラー エアレス
	弾性ワイドシリコン 塗料用シンナー	100 0~20	0.25以上	2	3時間以上7日以内 (最終養生24時間)	はけ・ウールローラー エアレス

可使時間(h)	気温(℃)		
	5~15	15~25	25~35
水性セラフレックスSi又はF	8	5	3
ラフトンボースイタイルトップコート	8	5	3
弾性ワイドシリコン	10	7	4

施工上の注意事項

- 気温5℃以下、湿度85%以上及び結露が懸念される場合は、施工を避けてください。
- 強風時や降雨・降雪のおそれのある場合は施工を避けてください。
- 下地は十分に乾燥させてください。(含水率10%以下、pH10以下)
- 下地の表面強度は0.5N/mm以上を標準にしてください。
- 塗膜の裏面に雨水がまわり込まないようシーリング・サッシ廻りなどとの取り合い部の防水処理は、十分に施してください。
- 施工時は、飛散防止の養生など十分に注意してください。
- 使用前に十分かくはんし、均一にしてから施工してください。
- 増塗りを行う部位は、プレキャストコンクリート、ALCパネル等の継手目地、建具周り、貫通部周り等の防水上重要な部位、出隅、入隅、目地部等の膜厚が薄くなりやすい部位、開口部周り等のひび割れが発生しやすい部位、下地の動きが激しい部位とする。

- 吹付操作はガンのノズルを下地面に対し直角に保ち、吹付圧・吹付距離(40~60cm)・運行速度を常に一定にし、むらなく均一に吹付けてください。
- 主材塗りは試し塗りで仕上りを確認し、本施工に入ってください。
- 標準所要量を厳守してください。膜厚が薄い場合、所定の性能が得られませんのでご注意ください。
- 各工程の施工間隔及び最終養生は所定の時間を厳守してください。
- シーリング材への直接塗装は、塗膜に欠陥を生じることがあるため、極力行わないでください。特に溶剤系下塗りを直接塗装すると硬化不良を起こすことがあります。塗装を行う場合はノンブリードタイプのシーリング材を使用するか、予めラフトン逆プライマーを塗装してください。(ポリサルファイド系シーリング材の場合は2回塗りしてください。シリコン系及びブチルゴム系シーリング材へは塗装を避けてください。)
- このカタログに記載以外の下地や仕様で施工される場合は塗膜欠陥を起こすことがありますので、使用する前に最寄りの営業所にお問い合わせください。

取扱上の注意事項

- 取扱い中は、皮膚に触れないようにし、必要に応じて下記の保護具を着用してください。
- 防塵マスク・頭巾・保護めがね・長袖の作業着・えり巻きタオル・保護手袋・前掛けなど
- 容器から取り出す時に、こぼれないようにしてください。
- もしこぼれた場合には、布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 皮膚に付着した場合には、直ちに多量の石けん水で洗い落とし、痛みまたは外観に変化があるときは、医師の診断を受けてください。
- 蒸気・臭いなどを吸い込んで気分が悪くなった時には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受けてください。
- 目に入った場合には、直ちに多量の流水で洗い、できるだけ早く医師の診断を受けてください。
- 誤って飲み込んだ場合には、直ちに医師の診断を受けてください。
- 取扱い後は、手洗い・うがい・鼻腔洗浄を十分に行ってください。
- 容器は密栓し、40℃以下で子供の手の届かない一定の場所を定めて保管してください。特に下記の場所の保管は避けてください。
- 雨水や直射日光の当たる場所・高温多湿の場所・潮風の当たる場所・凍結の恐れのある場所など
- 捨てる時には、産業廃棄物として処分してください。

- 詳細な内容が必要な時には、安全データシート(SDS)をご参照ください。
- ※溶剤系塗料を使用する時は、上記の注意事項に合わせて下記注意事項に注意してください。**
- 引火性の液体ですので、火気のある所では使用しないでください。
- 吸入すると有機溶剤中毒を起こす恐れがありますから、換気をよくし、蒸気・スプレーミストを吸い込まないよう必ず保護具を着用してください。
- 取扱い作業所には、局所排気装置を設けてください。
- 取扱い中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて下記の保護具を着用してください。
- 有機ガス用防毒マスクまたは送気マスク・頭巾・保護めがね・長袖の作業着・えり巻きタオル・前掛けなど
- 臭いは食品・飲食物・衣類などに、うつる場合がありますので、作業場所から遠ざける、または養生するなど、十分に注意してください。
- 容器から取り出す時には、こぼれないように注意してください。もしこぼれた場合には、布で拭き取って、水の入った容器に保管してください。
- 火災時には炭酸ガス消火器、泡消火器、または粉末消火器を用いて初期消火をしてください。

注1) 建築用塗膜防水材は、次のような下地では蓄熱や水分などの影響でパネルの変形や塗膜のふくれ、はがれを生じることがありますので十分ご注意ください。

- 軽量モルタル、ALCパネル、業系サイディング、発砲ウレタンなどを使用した壁断熱工法の外壁
- 上記下地に弾性リシン、弾性スタッコ、複層弾性などで仕上げた旧塗膜面



営業本部 〒510-0101 三重県四日市市楠町小倉1058-4 ☎059-397-2187 FAX059-397-6191
 研究開発本部 〒510-0851 三重県四日市市塩浜町1 ☎059-346-1116 FAX059-346-4585

札幌支店 ☎0133-60-6311 東京支店 ☎03-5661-2211 名古屋支店 ☎052-411-1255
 大阪支店 ☎072-862-1601 広島支店 ☎082-277-1116 四国支店 ☎0877-24-4621
 九州支店 ☎092-938-0071

取扱店

